

会 議 録

会議名	平成29年度第1回小金井市青少年問題協議会専門委員会		
事務局（担当課）	児童青少年課		
開催日時	平成29年9月15日（金）午前10時～午前11時		
開催場所	小金井市役所 西庁舎 第5会議室		
出席者	委員	高橋専門委員長、富士道専門副委員長、佐野委員、黒須委員、大澤委員、櫻井委員、古源委員、小山委員、倉持委員、羽田委員	
	その他	欠席：田原委員	
	事務局	伏見児童青少年課長、田中児童青少年係長	
傍聴の可否	可	傍聴者数	なし
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 委員長の選出について</p> <p>(2) 副委員長の選出について</p> <p>(3) 専門委員会による調査、協議のテーマについて</p> <p>3 閉 会</p>		
提出資料／その他配付物	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市青少年問題協議会専門委員会委員名簿（平成29年9月） ・東京都区市町村青少年問題協議会調査結果一覧（平成28年度）、平成元年以降に実施した青少年問題協議会の意見具申等の概要 ・この一年のあゆみ（市内児童館4館 児童生青少年課） 		
会議結果	<ul style="list-style-type: none"> ・互選により高橋委員を専門委員長に、富士道委員を専門副委員長に選出。 ・今の小金井の子どもたちの問題があると思われる事柄とそれについての専門委員会による調査、啓発すべき結果ということで、今後の専門委員会の協議のテーマについて各委員同士で意見交換した結果、(1)子どもの居場所の問題、(2)子どもの夢（主体性や自己決定）と大人の関係、(3)SNS等への依存に関する啓発、の3つが今期のテーマ候補として挙がり、この中から今期のテーマを、アンケートの手法等も含めて総合的に議論していくこととなった。 		

<p>伏見児童青少年課長</p>	<p>それでは、定刻になりましたので、会議を始めさせていただきます。皆さんおはようございます。</p> <p>児童青少年課長をしております伏見と申します。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>本日は、お忙しい中、青少年問題協議会の専門委員会にご出席いただきましてありがとうございます。本日、田原委員より欠席のご連絡をいただいております。また、黒須委員から到着の遅れる旨、ご連絡をいただいております。</p> <p>今回、第1回目ということで、委員長の選出、副委員長の選出までは事務局のほうで進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。それでは、初めに配付物について事務局から説明させていただきます。</p>
<p>田中児童青少年係長</p>	<p>おはようございます。児童青少年係、田中と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>議題に入ります前に、本日の配付物の確認をさせていただきます。</p> <p>まず、本日の次第が1部、裏面に本日の青少年問題協議会専門委員会委員名簿が印刷されてございます。それと、参考資料といたしまして、東京都区市町村青少年問題協議会調査結果一覧（平成28年度）、平成元年以降に実施した青少年問題協議会の意見具申等の概要、7月の青少年問題協議会でお配りしたものと同一資料でございます。ご確認ください。また、児童館の事業に関するこの1年のあゆみ（平成28年度）を参考としてお配りさせていただいております。</p> <p>本日の資料は以上でございます。ご不足等ございましたら、事務局までお申しつけください。</p>
<p>伏見児童青少年課長</p>	<p>資料のほうはよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、議題に入ります前に、7月の協議会本体で一度自己紹介をいただいているところでありますが、本日まで若干時間もあいてございますし、初めてこの場でお会いする方もいらっしゃるかと存じますので、大変恐縮ですが、簡単に一言だけ自己紹介をお願いしたいと存じますので、佐野委員から、申しわけありません、順番に自己紹介のほうをお願いできますか。よろしくお願いたします。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>おはようございます。佐野郁藏と申します。健全育成6地区連合会</p>

大澤委員	<p>からこちらに参っております。今後ともよろしく申し上げます。</p> <p>おはようございます。大澤幸江と申します。市立の小中学校 P T A 連合会の昨年度の P T A 副会長をやっております、こちらに来させていただきました。よろしくお願ひいたします。</p>
櫻井委員	<p>おはようございます。名簿の 6 番の櫻井綾子です。社協と健全育成から出ております。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
羽田委員	<p>羽田信行と申します。東京保護観察所立川支部保護観察官です。よろしくお願ひいたします。</p>
古源委員	<p>おはようございます。主任児童委員の古源と申します。民生委員児童委員協議会から参りました。よろしくお願ひいたします。</p>
小山委員	<p>おはようございます。番号は 8 番の小山です。北多摩東地区保護司会小金井分区の分区長をしております。よろしくお願ひいたします。</p>
倉持委員	<p>9 番、倉持です。児童館運営審議会から参りました。勤め先は東京学芸大学です。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
高橋委員	<p>3 番の高橋良知と申します。小中学校長会から、小学校中学校校長会から来ました。小金井第一小学校の校長をやっています。よろしくお願ひいたします。</p>
富士道委員	<p>名簿の 4 番の富士道正尋でございます。同じく市立小中学校長会から参りました。現在、南中学校の校長をしております。</p>
伏見児童青少年課長	<p>ありがとうございました。それでは、議題に入りまして、委員長の選出、副委員長の選出でございます。条例及び要綱上は、特に互選であるとか、どの役職の方がつかれるような規定はございませんので、慣例として互選で決めさせていただいております。互選の方法について、ご意見はございませんでしょうか。</p>
佐野委員	<p>佐野ですけれども。</p>
伏見児童青少年課長	<p>お願ひします。</p>
佐野委員	<p>指名推選という形はいかかなものでしょうか。</p>
伏見児童青少年課長	<p>ただいま、指名推選というお声があったが、指名推選ということでもよろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声あり)</p>
伏見児童青	<p>ありがとうございます。それでは、指名推選ということで、どなた</p>

少年課長 佐野委員	<p>かご推薦をお願いいたしたいと思います。</p> <p>佐野です。今まで、いろいろアンケートを作った際には、学校関係の方が委員長、副委員長という形と伺っておりますので、このたびも第一小学校の高橋校長先生に委員長をお願いしたらいかがかな、と思います。</p> <p>また、副委員長については、南中学校の校長先生の富士道先生にお願いをしたいと思っておりますけれども、委員の皆様、いかがでしょうか。</p>
伏見児童青 少年課長	<p>ありがとうございます。今、高橋先生を委員長に、また、富士道先生を副委員長にというお声がありましたが、皆さんいかがでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声あり)</p>
伏見児童青 少年課長	<p>ありがとうございます。ご異議なしということで、高橋先生に委員長を、富士道先生に副委員長を、という形で決定させていただきたいのですが、高橋先生、いかがでしょうか。</p>
高橋委員 伏見児童青 少年課長	<p>よろしく申し上げます。</p> <p>ありがとうございます。それでは、高橋先生には委員長席にどうぞ移っていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、委員長、副委員長にそれぞれ一言ずつご挨拶いただいた上で、その先の進行は委員長にお任せしたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。先にご挨拶のほうをお願いいたします。</p>
高橋委員長	<p>このたび委員長という大役を努めさせていただく事になりました、高橋良知といたします。ほんとうに微力ではありますが、皆さんのお力をかりて本委員会を進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>
富士道副委 員長	<p>富士道でございます。副委員長ということで、どうぞよろしく願 いいたします。</p>
伏見児童青 少年課長 高橋委員長	<p>申し上げます。</p> <p>それでは、ここから委員長のほうで議事を進めさせていただきます。 本日の次第をごらんください。次第の、今、2番の議題の(1)、(2) が終わったところです。</p> <p>それでは、続きまして議題の(3) 専門委員会による調査、協議テ</p>

	<p>ーマについてです。</p> <p>前回、7月25日の青少年問題協議会以降もご意見を事務局で預かる旨のお話が出ていたかなと思います。今日は、協議会で出たご意見も踏まえながら、今の子どもたちの状況や、皆さんがかかわっているそれぞれの団体等での状況などの報告を兼ねて、さらに意見等を出していただいて、次回に向け調整や協議の方向性を絞るということでよろしいでしょうか。よろしいですかね。</p> <p>では、ちなみに事務局では、今後の日程はどう考えているか教えていただけますか。</p> <p>今後につきましては、まず、次回開催予定が、本日の次第の下段に候補日として示させていただいているとおりでございます。来年2月末までの間に専門委員会を3回程度行いまして、そこまでにテーマと調査方法、アンケート調査であれば、その項目の案というものを決定していただき、専門委員会のご提案として、3月後半に青少年問題協議会の本体にご報告をいただく形になります。</p> <p>なお、アンケート調査の場合につきましては従前、3月の青少年問題協議会本体でテーマをご承認いただいた後、他の委員の方のご意見も加えて専門委員会でも新年度6月までにアンケートを作成し、7月に学校経由でアンケートを実施するという流れになってございました。3月の協議会本体で案をご提示いただいたほうが、新年度冒頭のアンケートの最終作成がスムーズに進みますが、審議の進みぐあいによっては、テーマと調査方法までで本年度の専門委員会は終了し、協議会本体でご承認をいただくということもございます。ただ、その場合には新年度4月、5月の専門委員会でアンケート案の作成が必要になりますので、来年度の専門委員会の回数が1回、2回増えてしまうというところがございます。事務局が今後の進行ということで想定しているものは、以上になります。</p>
<p>田中児童青少年係長</p>	<p>ありがとうございます。今のお話を聞くと、幾つかのことの方向性が出てくるのかなと思います。今回と次回で調査方法について協議をして、来年はその具体的な聞き方のアンケートの方法を話し合うというイメージになるのかなと思います。</p> <p>今日までに専門委員会でご意見があれば、事務局で集約という話が</p>

<p>田中児童青 少年係長 高橋委員長</p>	<p>7月の会議であったと思いますが、事務局から報告はありますか。</p> <p>7月の協議会本体でお知らせいたしました他の委員からの意見のお預かりですが、本日までの間、お預かりしたものはございません。</p> <p>わかりました。では、本日出席の皆様からご意見をいただければと思います。今日は1回目の具体的な内容についての会議になりますので、皆様のご意見の中から、現在の小金井市の子どもたちに関係して問題があると思われるような事柄、啓発すべき結果の出るものではないかと思われる提案、私がやりたい内容について列挙していただき、テーマの傾向から絞っていくことができればなど考えています。</p> <p>先ほどの事務局の説明もありまして、後々のことを考えると、テーマが今日中に決まるとさらによいと思っています。</p> <p>では、皆さんからご意見を聞いていってよろしいでしょうか。</p> <p>では、まず私のほうから今まで考えてきたことを話をさせていただいて、それ以後、左回りで富士道先生という形で皆さんご意見をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>では、私から、ちょっと大きいテーマなんですけど、子どもの権利に関する条例という、前回資料が配られたと思うんですが、それについて、この委員会の中で協議をしていくことはどうかなと考えております。</p> <p>平成30年度ですが、小金井市子どもの権利に関する条例が制定10周年になるということです。このことから、この条例の児童・生徒やその保護者への普及の度合い、また、2つ目として相談・救済の機関の認知の度合い、スクールソーシャルワーカーですとか、教育相談所、児童館の専門相談など、3つ目が、意見表明の場として、どんな分野で意見を表明したらいいか等について、この会ではアンケートを実施するということですので、4択で20問か25問程度、例年これぐらいでやっているのかなと思うんですが、アンケートを行って、その結果を受ける形でリーフレットを作成して、児童・生徒、保護者への条例の啓発と相談・救済機関の周知に生かしたらどうか、ということを考えています。</p> <p>私のほうは、ざっくりとこれぐらいで考えています。協議の中で具体的な部分を説明してくださいということであれば、考えていること</p>
---------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>富士道副委員長</p>	<p>はお話しします。</p> <p>では、次、富士道先生よろしいですか。</p> <p>今、私、中学校の現場で見まして、非常に危機感を感じているのは、やはりSNSです。学校や親が知らない中でさまざまなことが、非常に速いスピードの中で拡散してしまっています。そういう意味でも、学校関係だけじゃなくて地域や保護者、大人がどう対応していったらいいのかというのが、今一番大きな課題になりつつあるのかなと思います。それが先ほど高橋先生のおっしゃっていたような子どもの人権にもかかわってくるわけです。そういう意味で、非常に気にしている部分でもあります。</p> <p>特に、それは単なる拡散とか個人情報流出以外にも、それを使って夜まで遅く起きてというような、生活の乱れというところにもつながってきている部分もあるわけで、そういうところを私たちがどうきちっと把握しながら、どんな啓発ができるのか、そんなことも、ぜひ議論をしていけたらいいなと思っております。以上です。</p>
<p>高橋委員長 倉持委員</p>	<p>では、倉持委員。</p> <p>私、7月の本体の会議にも欠席してしまっただので、議論についていけないのですが、個人的な関心で言わせていただきますと、私は、専門は社会教育、生涯学習なので、子どもたちの居場所についてはどうでしょうか。どういうところで、また地域の人とさまざまなかかわりや学校内外でのかかわりを通して、どこに居場所を得ているのか、漠然とですけども考えました。以上です。</p>
<p>高橋委員長 小山委員</p>	<p>小山委員、お願いします。</p> <p>私も、ここで前任の委員から新しくなりまして、全体像をつかみ切れないところがあるんですけども、保護司の立場から言わせていただきますと、非行や問題行動など。そういう実態が調査できればと思います。私が住んでいるのが緑中の近くで、緑中の教頭先生とか職員の方とは年1回情報交換みたいなものをしておりまして、生徒の実態がどうなのか、これはよく聞いてはいるのですが、以前と比較しますと、不登校の方が増えている、ということも聞いておりまして、さきほどのSNSではありませんけれども、そういうものについての、何かそこにつながるような、危険性についての啓発をしていく必要が</p>

高橋委員長
古源委員

あると思います。それから、対策ではないですが、子どもの居場所づくりというのはかなり重要であると言われております。そういうものをどう構築していくのか。雑駁ですけれども以上です。

古源委員、お願いします。

今、お二方から出た居場所づくりということに関して、私も前々から地域の子育て中の保護者の方からお話を聞いたりする機会があるのですが、学童保育所に通う子どもが増えている中で、学童保育所は3年生までで、4年生になって、いきなり放課後が自由になっちゃうと、大変保護者が心配だということで、例えば週に5日のうち3日はお稽古事を入れて過ごしてもらおうということで対応しているおうちがあるという、大分多いそうです。例えば火曜と木曜は塾行ってみたいなことで。でも、それができないおうちもあるので、そうなる、じゃあ子どもはどこでどうして過ごしたらいいのかということが問題だと聞いております。それで、児童館がない地域には居場所のない子どもたちがたくさんいて、屋根があって子どもがただ集う、何とか教室とかではなくて、そういう場所がないものかしらという話を聞きます。

それから、中学生に関しても、部活があり、帰宅も遅い。それから、先ほどSNSの話も出ましたが、家に帰ってもお友達とつながってられるということはあるのですけれども、やっぱり場があれば集うことができるという考え方もあり、その子どもの放課後の過ごし方とか、それから、親の就労状況によって変わってくる子どもの生活設計とかいうことも含めて、子どもの地域での居場所、私たちが何ができるのかというあたりをお話しするのもいいかなと思っております。

もう1つは、前回の協議会で、佐野委員からお話があったと思うんですけれども、子どもが夢を持てるんだらうかという、そんなお話がちょっと出たかと思うんですけれども、私も中学校でお話をする機会がございまして、そこで進路のお話が出たりします。それで、進路を決定する際に、どうも今の子どもは、子どもはというよりも、保護者のほうの、こういう進路がいいじゃないかという意思がどうも先に立って、子どもがその道に付随していくような、子ども自身が明確なビジョンを持っていないような中学3年生とか、そういうこともあるんじゃないかということ、中学校でお話を伺ったことがあります。親

<p>高橋委員長 羽田委員</p>	<p>子できちんと進路を把握してほしいというお話を聞くことがございます。</p> <p>中学3年生は人生の選択をする時期ではありますがけれども、小学生であっても、やはり将来どういうふうになりたいとか、中長期的な、どんなことを考えて今過ごしているのかとか、今、わりと夢が持てなくて、この程度だろうということ、漫然と過ごしちゃうこともあるということも聞きますし、それは自己肯定感とか、そういうことにもつながってくるかと思うんですけれども、そういったことも含めて、どんなふうに未来像を描けるのかなというあたりもどうかかと、2つ考えております。以上です。</p> <p>ありがとうございました。羽田委員、お願いします。</p> <p>ふだん、仕事柄、健全な、という子ではなくて、失敗してしまった、非行を繰り返してしまった子たちと接しているわけですがけれども、彼らを見ていて思うのは、一昔、二昔前と比べたときに、まず昔は非行少年が、つるんでみんなで悪さをして、その延長に非行があるというものだったんですけれども、最近の子たちはつるまない。いわゆる非行少年じゃない、パワーがないです。生きるパワーをすごく感じない子たちが、最近目立ってきている気がします。夜な夜な出歩いたり、家庭内で暴力を振るったり、路上を暴走したりとか、あと、集団で何かやるとか、そういうのがないです。いいところでもあるのだけれども、でも、生きる、これから将来を担っていく子たちの、何かパワーがない、力がないというところを感じているところがあります。</p> <p>どうしてそうなってしまっているのだろうかというあたりが、やはり探っていけるような調査とかがあればおもしろいなとは思っています。</p> <p>ちょっと漠然としていますますが、そんなふうに。</p>
<p>高橋委員長 櫻井委員</p>	<p>櫻井委員、お願いします。</p> <p>私は、健全育成の立場から、子どもへのかかわり方ということで、年に2回ほど健全育成で、春の子ども週間行事と秋の市民まつり子ども部門行事をやるのですが、市民まつりのほうは比較的、これは縁日をやるんです。子供会のお母さんたちもいろんな出店をやったり、私ら健全育成は焼きそばをやったりしますが、ふだんあまり見ていないような子どもたちが何百人も集まるんです。やっぱり、こういう行事</p>

<p>高橋委員長 大澤委員 高橋委員長 大澤委員</p>	<p>に関しては皆さん参加してくれてありがたいなと思いますし、子ども週間行事の方はボウリングとか、そういったゲームもあるんですけども、とにかく子ども達がほんとうにみんな何回も並んで、2回目だけやっていいですかとか、そんなことで、やはり子どもたちは、ふだんそういった遊びをやってないというか、ふだん忙し過ぎるんでしょうか。塾や習い事に行ったりしているのか、ほんとうに外で遊んでいる姿を見ないんです。公園なんかでも放課後は全然いませんし、やはり忙しくなったというのですけれども、居場所も、児童館もあるんですが、いつも利用する子は決まっている感じ。だから何か、もうちょっと平らかに、皆さんが、子どもたち同士で絆とか、そういった仲間づくりみたいなのがあったら、勉強のほかにも、そういった地域での仲間づくりなんかがあるといいなと思いました。</p> <p>それと、あと、子どもの虐待が最近言われたりするんですが、そんなことは今どうなっているんでしょうか。ちょっとわかりませんが。</p> <p>すいません、雑駁で。以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>大澤です。</p> <p>お願いします。</p> <p>私が思っているのは、SNSの利用法、自分でもよくわかっていないので何とも言えないんですけども、LINEでグループをつくっているにもかかわらず、1人の子をいきなり除け者にする、削除するというか、今までグループに入っていたはずなのに、あれ、何で私いなくなっちゃったの？ みたいなのが結構頻繁に子どもたちの中で行われている、行われているようなそぶりがあるみたいで、簡単に人と接する、できることによって、夜中でも何でも人の悪口なり何なりをがーっとそこで言い合っているというのを人の話とかから聞いていると、もうちょっと使い方というか、身近にいないからこそ、これをやったら人を傷つけるということを、実感として子どもたちの中になのかなというのはすごくあります。</p> <p>SNSに関してはずっと今までも言われていることではありますけれども、周りの子たちを見ていても、そこら辺をもうちょっとうまく教えてあげたいなという気はします。以上です。</p>
------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>高橋委員長 黒須委員</p>	<p>ありがとうございます。では、黒須委員、お願いします。</p> <p>すいません、今日は遅れて申しわけありませんでした。</p> <p>私は、確かに居場所づくりというのに緑中がかかわり始めたところなので、中学生の居場所づくりというのはほんとうに大事なことなんだなと思っている次第です。</p> <p>それから、今回のテーマですが、以前、富士道校長先生が話をしてくれた、キレる子ども、最近の脳科学から見ると、性ホルモンの分泌と脳の意外な関係性が明らかということで、キレるというのは成長過程で当たり前のことなんだという、その認識というか、そういうことがすごく、えーっみたいな感じで受け取ったので、そういうことを、そういう子どもたちにどうやって対応していくかということで話もされていたと思うのですが、小金井のお母さんたちが認識した上で、じゃあ、子どもにこうやって対応していくとよい、というふうに親子関係がそこで変わっていったら、すごく各家庭がよくなって、子どもの状況がよくなるんじゃないかなという思いがあります。過去に「かけがえのない自分」というタイトルで、25年6月に発行したリーフレットの内容とちょっとダブるところもあると思うんですけども、でも、こういうことが当たり前なんだよ、そういうキレる子というのは当たり前なんだよということを親たちにわかっていただいて、それで次のステップに行けるようなアンケートから始まって、お母さんたちにわかってもらえるということができたらいいなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
<p>高橋委員長 佐野委員</p>	<p>ありがとうございます。では、佐野委員、お願いします。</p> <p>佐野です。放課後子ども教室というのが小金井でも数多く実施されています。小学生を対象にした事業ですばらしい事業ですが、中学生に対しては、そういう事業が、まだ展開されていないという現状なので、中学生にまで広げていくことを考えてみたらいかかなと思っています。</p> <p>あと、焦点がずれてしまうかもしれませんが、私は子どもが夢を持って、今生きているのかなと時々感じてしまうときがあるんです。子どもたちがすみ分けをされてしまって、すみ分けをされた中に勉強についていける子と勉強についていけない子、これは私が子どものとき</p>

もありました。そこで大きく分けられてしまって、勉強についていけない子に対し、どういうふうに夢を持ってもらえるか、夢を実現することがいかにしてできるのかと考えています。

この間も少し話しましたがけれども、個性的な子どもがすごく多くなっていると私は思うんです。勉強ができる子というのは、大体いい子というか、親の意見に従っている子が多いんじゃないかなと、個性的な子どもは、自分の個性を認めてもらえる機会がすごく少ないように私は思います。

オリンピックでもそうですけれども、今度ボルダリングという壁を登っていく競技があります。あれをやっている子どもも最初はどう見られていたかというのを考えてみたらいいんじゃないか。あと、スケートボード。それから、この間メダルとりましたけれども、カヌーの青年。ほんとうに私はびっくりした気がするんですけれども、やっぱり自分が夢を持っているんなことができる、そういうものを理解してあげることがすごく大切な時代になったんじゃないかなと思うんです。

高橋委員長

ありがとうございます。皆さんから多岐にわたるご意見をいただいて、なかなかこの中から絞っていくのも難しいのかなと思ったのですが、皆さんの意見を聞いていて項目別に分けると、SNSにすることが3人の方から、子どもの放課後を含めた居場所にかかわることが3人の方から、夢ということで2人の方から、それ以外ということで、今の子どもたちにはパワーがない、集団ではなく個別で非行傾向に走るという話とか、虐待、また、地域でのかかわりという話、あと、キレる子ですか、というのがありました。

単純に数でいくと、SNS、居場所、夢というのが3・3・2ということで、皆さんのご意見の数で言うと多かった内容なのかな、と思うのですが、今日の会議の段階で二、三ぐらいに絞っていければいいと思います。どうでしょうか。今、皆さんのご意見を整理するとこんな感じかなと思ったのですが、引き続きいろいろご意見いただければありがたいと思います。

小山委員

ちょっとだけよろしいですか。

高橋委員長

お願いします。

<p>小山委員</p>	<p>私、いろいろお話を聞いていまして、夢の問題とか、保護者が強い進路の問題だとか、そういう子どもの主体性とか自己決定といえますか、その辺がどうなのかなという疑問を感じまして、親の考えに沿っていくというのが、さっきのパワーの問題とも関係すると思うのですが。要は、自己実現を図っていきたい、自己実現を図ることは、夢をかなえると、きっと自己実現を図ることと多分同じようなことだと思うんですけれども、そのためのいろんな場の提供とか、多様な仕組みづくりとか、大人側、あるいは社会側の考え方とか仕組みをどうしていくのかと、僕も今お話を聞いていまして、どうしたらいいなという気がするんです。</p> <p>そこで、そういう多様性を認めながらさまざまな分野で、ボランティア活動でもいいですし、スポーツでもいいですし、さっきのボルダリングでもいいんですけれども、いろいろと本人がやりたいことの可能性もチャレンジしていく。そういった中で自分は何をしていくか、どういうことをしていくか。人間ですから、やはり得意、不得意あると思うんです。勉強、もしくは運動という話でもありませんので、それぞれ個性とか、そういう能力を模索しながら、どうそれを伸ばしていくかといったようなことを我々サイドとして、あるいは教育委員会も含めてしていくかということ、今、話を聞いていまして感じまして、ほんとうに、子どもの自己実現につなげていくのは大変重要だなということを感じました。以上です。</p>
<p>高橋委員長 黒須委員</p>	<p>ありがとうございます。ほかに、皆さんいかがでしょうか。</p> <p>はい、黒須です。インターネットのスマホとかSNSの問題ですけれども、ゲームとかやり過ぎたりして、学校に行けなくなっちゃったり、その世界にどっぷりつかっちゃってとか、すごくそういうのが問題ですよ、みたいなことで26年7月発行のリーフレット作成時の調査でも、このことを扱って、お子さんが専用のインターネット端末を持っていますかという質問と、その端末の使い方のルールを家庭で決めていますか、3つ目が、インターネットの使い過ぎで寝不足や宿題を忘れたことがありますかと、もっとソフトな感じでは、家庭ではこういうルールを決めましょうとか、そういう感じの広報はしたことがあるんですけれども。</p>

大澤委員

多分、このときと、やっぱり今はもっと違っていると思います。この時点では、まだスマホとかを持っていない中学生とかもいっぱいいたと思うんですけども、今はスマホを持っていない中学生を探すほうが大変というぐらいに、普通の携帯とスマホでいうと、スマホだとインターネットやゲームをずっとやっていることもあり得るので、あと、うちの子どもたちとかを見ていても、3年前と今とは全然違うと言ったら変なんですけれども、そのころは、ゲームとかもそんなにはまだやっていなかったんですけども、今、娘たちを見ていても、ほとんどずっとスマホでゲームをやっている状態であったりとか、息子が中学生になっているんですけども、息子も、以前はそんなに興味がなかったんですけども、タブレット端末とかもあるじゃないですか、ああいうのがあることで、それは家庭の問題でもあるのは確かなんですけれども、ずっとひたすらタブレット端末をいじっていたりというのがあって、多分毎年毎年のようにスマホなり何なりを持っている子がどんどん増えていっているとは思いますが。

その中で、多分最初のうちは、こういう決まり事があったりとかしていても、どんどんそれが崩れていってしまっている。同時に居場所がないという話もありましたけれど、帰宅した時点でおうちでお母さんがいなければ、ずっとタブレットをいじっている子どもとかがいたりするんじゃないかなと。

だから、どうしても、これってずっと毎年毎年のように出てくる議題ではあると思いますけれども、そんな感じで。どんどんインターネットやスマホに依存する傾向が、多分毎年のように強くなっているのではないかなと思います。

佐野委員

佐野ですけれども、非常に怒られてしまうかもしれませんが、校長先生がお二人いらっしゃるので。

学校へ行きたくなくなったら図書館においでというニュースがあり、非常に反響を呼んだかと思います。で、ほんとうに学校へ行かなきゃいけないの？ という思いは私にもあります。というのは、子どもの心がよくわからないという部分もありますけれども、逆に言うと、学校には行きたくないけれども、図書館においでと、そういう呼びかけが大きく反響すること自体に、何か反省するところがあるのではない

<p>高橋委員長</p>	<p>かなと思います。</p> <p>私も中学のころ、学校へ行くとおなかが痛くなったりして、よく保健室に行きました。保健の先生がどうしたのと。いや、ちょっとおなかが痛い。じゃあ、ここで少し休んでいきなさいと、そういう逃げ場が学校の中に、私が中学校のときにあったように思うんです。今あるかどうか、よくわからないんですけども。</p> <p>子どもって逃げ場を欲しがっているという部分もあるんじゃないかなと、自分の幼いころの体験からそういうふうに感じます。</p> <p>いかがですか。まだ絞るまで、皆さん感じたこととかお考えを聞かせていただいて、最後に絞っていけばいいかなと思いますので。</p>
<p>小山委員</p>	<p>すいません。お話を聞いていて、いつも思い出すことが多いんですけども、以前NHKで「ぼっちゃん」というドキュメンタリーをやっていたんです。それは保護司のOBのおばあちゃんなんですが、今、親が経済的に貧困の子どもたちが、食べ物がない、居場所がない、あるいは精神的貧困で、なかなか学力の問題もあるんでしょうけれども、居場所がなく、そのおばあちゃんのところに行くとはっとすると、安心できる、食事もつくってくれるということをテレビでやっていました。それで、学校内にそれをつくるか、つくらないかとか、あるいはそういう場がそもそも必要なのかということの議論もあるんでしょうけれども、今もそういう人はいるんですけども、昔はより多く地域のおせっかいおばあさん、おばあちゃんみたいな方がいらっしゃいました。そこでそういう子たちを受けとめて、それでも結果として非行へ走って少年院に入っちゃう子もいるんですけども、そういうものを未然に防いだりとか、大事に至らないようなケアというか、世話というか、そういうことをしているという事例があるので、それをヒントにしてそういう仕組みづくりみたいな、古くて新しいような場面づくりみたいなのも、地域の中の居場所として、今話を聞いていて、以前テレビでしてましたので、その辺も参考になっていいんじゃないかなということでご紹介しました。以上です。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>小金井にも今でも駄菓子屋さんってあるんです。結構何十円か持って子どもたちが向かう。</p> <p>ある学校の近くの駄菓子屋さんには、一見悪ガキみたいな子が来る</p>

んです。そこにたむろしてお店の人と色々な話をしている。そういう光景を見てみると、私たちが小さいころって、結構、駄菓子屋さんっていっぱいあったなと。だから、子どもがほっとする何かそういう部分が、今の子どもたちに提供されていないのではと感じ、ちょっとかわいそうだなと思います。そこに行くこと自体、不良少年とか、そういうふうに見られてしまう流れがあるのではと。私も会話を聞いていると、そんなに悪い子じゃないんじゃないのと感じるんですけども、そういうところに行くこと自体がいけない。そこのお店のあるじに聞くと結構注意しているんです、そんなことやっちゃだめだと。だから私は、そういうところがもう少し増えてもいいのではないかと。昔は必ず小学校の近くに駄菓子屋の1軒かそこらあったと思うんだけど。

だから、排除してしまうというんじゃなくて、協力してもらおうとか、そういう姿勢を私たちが持つことが大事なんじゃないかなと。ほんとうにつかめない情報というものを、逆に言うとそこで教えてもらうことができるんじゃないかなと思うんですけども、シャットアウトするんじゃなくて、少し子どもたちのために協力してくださいという……、大人の姿勢に問題があるんじゃないかなという気がよくするときがあります。

そのほかございますか。櫻井さん。

駄菓子屋というご意見も出たんですが、私はたまたま小学校の下校時のパトロールをさせてもらっているんです。月何回でもないんですけども。それで、やはり声かけをして、子どもたちに声かけ、こんにちは、おかえりとか言っても、最初は全然あまり挨拶しなかったんですが、今度は子どもたちのほうからこんにちはとか、だから、ふだんのそういったかわり方、声かけなどをしていますと、やはり自分たちは見守られているんだなという、地域の方に見守られているんだなと思いますので、子どもたちも穏やかとかいうか、非行にも走らなくなるとは言えませんが、ふだん我々大人がやはり子どもたちへの接触の仕方、何でもいいですが、道路にいて声かけをしたり、挨拶をすることが必要じゃないかなと思いますが、今こういう時代ですので、変な人から声をかけられるから無視したほうがいいという親も

高橋委員長
櫻井委員

富士道副委員長

いらっしゃるようですので、その辺難しいなと思います。特に小学生の場合は見きわめがわからないので。

少し論点が広がっているものですから、集約は難しいのかなと思いますが、今お話伺っていると、やっぱり1つは居場所づくりが課題だと思います。放課後の子どもの生活というのは、どこで何やっているんだろう、そのところをしっかりと解明しながら、地域なり、また、保護者、学校がどうそれに対して対応してフォローできるのかという提案ができるかどうか重要になると思います。

それから、もう1つは、今将来の夢づくり、自己実現というお話です。キーワードで出てきましたけれども、これは大変大きなお話ですので、具体的に何を幾つという話にはならないのかなと考えています。

例えば、小学校なり中学校の中では、いわゆるキャリア教育を進めています。かつてのような、いわゆる進学のための進学指導とか学校選びとかいう話ではなくて、将来どう生きていくかという生き方教育、これは学校だけがやることではなくて、本来は親が自分たちの背中を見せているかどうか、さらに、今、自分の親は何をしているんだろうという問いに答えられない子どもたちが増えてきていると聞いています。

仮に職業を聞いて職業までは言えても、では何をやっているのかってわからない。かつては、いわゆる農業であれば、自分のうちで親が朝から夜まで何をしているのかというのを見ている、自分もその場に出て一緒にやっている、そういう時代もあったんですが、今そんなことできるわけではありません。朝は早く出てから深夜まで帰ってこない、何やっているんだろう、という話になるわけです。

これからどういう形で子どもたちに将来自分で判断をさせていったらいいのか、そういう意味で、大変これは幅が広いものですから、地域でそういうさまざまなイベントや、いろんな受け皿をつくって体験させるといいのですが、じゃあそれを誰がやれるんですか、という話になったら、なかなかやっぱりうまくいかない。それは財政的な問題もありますし、それから、当然責任という問題も出てきますし、指導者という問題も出てきますし、全て含めてそういう意味で、居場所づくりにもかかわってきます。やはり将来への子どもたちの夢

高橋委員長	<p>実現に向けての生き方を、子どもたちにどう私たち大人が支援できるか、そんな方向性に向けていくことが方法かなとは思いますが。</p> <p>そうすると、いかがでしょう、今日の段階で、今日の目的なんですが、今の小金井の子どもたちの問題があると思われる事柄、それについて啓発すべき結果ということで、その2つのキーワードをもとに何を研究するかということはある程度絞って決めるということになります。</p> <p>今のお話の中でいくと、居場所ということと、夢実現、子どもたちのためにどのような取り組みをしていくかというお話、あと、そこにSNSという話も絡んでくるのかなと思うんですが、今の問題としてそういうのが挙がっています。その3つぐらいがテーマとして出てきたのかなと思うんですが、この3つの中で、今日はとりあえず3つテーマが出てきたというところで委員会の結論ということにしてもよろしいでしょうか。</p> <p>事務局のほうは問題ありませんか、スケジュール的に。</p>
田中児童青少年係長	はい。ありがとうございます。
高橋委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では繰り返します。今日、委員の皆さんで協議した結果、まず1つ目がいわゆる居場所、次に夢、自己実現、最後にSNSなどの問題、この3つについてということになります。</p> <p>今回はこの中からテーマを1つに決定するということになります。今、富士道副委員長からもありましたように、じゃあ、そのテーマについて、今度は具体的にどのようなアンケートを実施していくのか、アンケートの方法や質問項目についても協議をしていきたいと思いません。</p> <p>その部分についてご意見ございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>では、次回まで宿題になってしまいますが、3つのテーマをどのようにするか、また、どういうふうに調査、研究していくか、アンケートの質問項目をどうするかなどを考えてきていただければと思います。それでは、第1回の専門委員会を閉会いたします。ありがとうございました。</p>